



平成24年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年1月11日

上場会社名 株式会社マックハウス 上場取引所 大
 コード番号 7603 URL <http://www.mac-house.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 舟橋 浩司
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 杉浦 功四郎（TEL） 03(3316)1911
 四半期報告書提出予定日 平成24年1月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成24年2月期第3四半期の業績（平成23年3月1日～平成23年11月30日）

(1) 経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年2月期第3四半期	29,446	△5.8	1,448	—	1,506	—	734	—
23年2月期第3四半期	31,256	△13.5	△787	—	△657	—	△1,478	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年2月期第3四半期	47.09	—
23年2月期第3四半期	△94.80	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年2月期第3四半期	27,498	13,017	47.3	834.78
23年2月期	27,501	12,439	45.2	797.69

（参考）自己資本 24年2月期第3四半期 13,017百万円 23年2月期 12,439百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年2月期	—	10.00	—	10.00	20.00
24年2月期	—	0.00	—	—	—
24年2月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

（注）当四半期における配当予想の修正有無 : 有

3. 平成24年2月期の業績予想（平成23年3月1日～平成24年2月29日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通 期	40,000 △5.7	1,900 —	2,000 —	1,100 —	70.53

（注）当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 6「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年2月期3Q	15,597,638株	23年2月期	15,597,638株
24年2月期3Q	3,388株	23年2月期	3,308株
24年2月期3Q	15,594,303株	23年2月期3Q	15,594,419株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については四半期決算短信（添付資料）5ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	4
(3) 業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	6
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
3. 四半期財務諸表	7
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
【第3四半期累計期間】	9
【第3四半期会計期間】	10
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
4. 「参考資料」	13
商品別売上高の状況	13

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(平成23年3月1日～平成23年11月30日)における我が国経済は、東日本大震災による生産面・供給面での制約が徐々に解消されて穏やかな回復に向かいつつある一方、原発事故や長期化する円高の影響、さらには欧州の金融市場の動揺をきっかけとする海外経済の減速等、世界経済への懸念は増大しており、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

1) 消費環境の概要

- ① 震災直後に急速に冷え込んだ消費マインドは、地区による濃淡はありながらも平常を取り戻しつつありますが、勤労者世帯の消費支出は減少が続いているなど、個人消費全般に環境はなお厳しいものとなっております。
- ② 衣料品の消費に影響を及ぼす天候については、上半期の前半に低温の時期がありましたが、その後、カレンダーに合った季節感の天候で推移し、当第3四半期は、気温が全般に高く、降水量も全国的に多めでした。

2) 当社の状況

厳しい消費環境のもと、当社は以下のような施策を実施して、客層の拡大を図り、売上の拡大、経費の削減に努めてまいりました。

① 商品施策

i メンズ部門

上期にも実施してきた、トータルコーディネート重視の提案を、当第3四半期においても各店舗の状況に応じてきめ細かく実施しました。また、昨年あたたかインナーとして開発した「MAC HEAT」をアウターや小物などにも展開を広げ、お客さまのニーズに合ったベーシックな商品が揃った売り場づくりを行った結果、客単価の上昇につながり、商品アイテム数の削減も実現するなど、商品構成の変革が売上・利益率の向上に寄与しました。

ii レディース・キッズ部門

上期には重点販売商品の明確化が十分に徹底できていなかったとの反省から、メンズ商品と同様にコーディネートを重視した提案に努めた結果、一部のPBジーンズで予想以上の売上が実現するなど、部分的にはお客さまの支持を得られるようになってきており、引き続きお客さまの声を商品構成に反映させる仕組みを具体化してまいります。

iii その他

地域密着型の小物を充実させることにより、ご来店の頻度やお買上点数の向上を図りました。

② その他の施策

当第3四半期においては、フリーマガジン「NANA style」第3号の発行、テレビCMの実施、及びそれらと連動したチラシによる販売促進活動の他、60歳以上の方を対象とする「シルバー割引」の実施や、モバイル会員向けの機動的な情報発信・割引施策などの販売促進策を実施しました。

また、新規出店につきましては、引き続き慎重な姿勢で取り組み、上半期にはインストアに3店舗を出店し、当第3四半期には古着も扱う「エコカジ屋」業態を5店舗出店した一方、今期を通じて29店舗の退店により、第3四半期末店舗数は498店舗(前年同四半期比28店舗減少)となりました。

さらに、99店舗において店舗改装を実施し、お客さまにとって快適な売り場づくりにも努めました。

加えて、各店舗に寄せられるお客さまの声を、よりきめ細かく施策に反映させるために設置した大阪事務所と名古屋事務所が上期より稼働を開始し、店舗の特性に応じたMDの構築に貢献した他、上期に引き続き諸経費の削減に取り組み、概ね計画どおりに経費をコントロールしてきました。

これらの結果、商品構成の変更、店舗改装の効果としての店舗イメージの刷新や、幅広いお客さまへ向けた広告活動などが奏功して、お客さまの層が大きく拡大しました。

当第3四半期会計期間における売上高は10,510百万円(前年同四半期比2.5%減)、売上総利益率の前年同四半期比2.7ポイントの改善及び販売費及び一般管理費の削減によって、営業利益は785百万円(前年同四半期は営業利益122百万円)、経常利益は810百万円(前年同四半期は経常利益175百万円)、四半期純利益は813百万円(前年同四半期は四半期純損失54百万円)となりました。

また、当第3四半期累計期間における売上高は29,446百万円(前年同四半期比5.8%減)、営業利益は1,448百万円(前年同四半期は営業損失787百万円)、経常利益は1,506百万円(前年同四半期は経常損失657百万円)、四半期純利益は734百万円(前年同四半期は四半期純損失1,478百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ2百万円減少し、27,498百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ564百万円増加し、19,879百万円となりました。これは主に現金及び預金が481百万円減少した一方で、売掛金が624百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ566百万円減少し、7,618百万円となりました。これは主に閉店により敷金及び保証金が646百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ580百万円減少し、14,481百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ926百万円減少し、11,005百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が340百万円、ファクタリング債務が495百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ346百万円増加し、3,475百万円となりました。これは主に長期リース資産減損勘定が297百万円減少した一方で、資産除去債務が624百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ578百万円増加し、純資産は13,017百万円となりました。

これは主に四半期純利益を734百万円計上したことや剰余金の配当155百万円などによるものであり、総資産に占める自己資本比率は47.3%となり前事業年度末に比べ2.1ポイント増となりました。

(1株当たり純資産額)

当第3四半期会計期間末における1株当たり純資産額は834円78銭となり前事業年度末に比べ37円09銭の増加となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は営業活動、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなり、資金は前事業年度末に比べ681百万円減少し、8,837百万円となりました。

また当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果支出した資金は、364百万円となりました。

これは主に、税引前四半期純利益を909百万円計上するとともに、売上債権の増加624百万円、仕入債務の減少840百万円を計上したこと等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、67百万円となりました。

これは主に、定期預金の預入により200百万円支出した一方で、敷金及び保証金の回収による収入が228百万円増加したこと等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、249百万円となりました。

これは主に割賦債務の返済による支出91百万円及び配当金の支払額155百万円等によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成23年10月7日に公表いたしました「平成24年2月期 第2四半期決算短信」の通期の業績予想及び配当予想を修正しております。

詳細につきましては、本日付「平成24年2月期業績予想の修正並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益がそれぞれ19百万円減少し、税引前四半期純利益は525百万円減少しております。また当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は676百万円であります。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年11月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成23年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,446	10,927
売掛金	1,079	455
商品	7,851	7,445
前渡金	10	6
前払費用	416	443
その他	75	37
流動資産合計	19,879	19,315
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	177	186
建物附属設備(純額)	633	552
構築物(純額)	46	46
工具、器具及び備品(純額)	60	60
土地	238	238
建設仮勘定	0	0
有形固定資産合計	1,156	1,086
無形固定資産		
借地権	106	106
ソフトウェア	7	—
無形固定資産合計	114	106
投資その他の資産		
出資金	0	0
長期前払費用	204	230
敷金及び保証金	6,086	6,733
破産更生債権等	26	7
その他	97	67
貸倒引当金	△67	△47
投資その他の資産合計	6,347	6,993
固定資産合計	7,618	8,185
資産合計	27,498	27,501

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年11月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成23年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,808	6,149
ファクタリング債務	2,840	3,336
未払金	321	523
未払法人税等	55	133
未払消費税等	31	2
未払費用	1,156	768
預り金	11	9
前受収益	31	33
賞与引当金	26	80
店舗閉鎖損失引当金	231	344
リース資産減損勘定	423	509
リース債務	2	2
資産除去債務	32	—
その他	30	39
流動負債合計	11,005	11,932
固定負債		
長期末払金	284	330
退職給付引当金	1,374	1,416
役員退職慰労引当金	130	122
転貸損失引当金	258	202
長期預り保証金	206	198
長期リース資産減損勘定	536	833
リース債務	4	6
資産除去債務	624	—
繰延税金負債	56	19
固定負債合計	3,475	3,129
負債合計	14,481	15,062
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617	1,617
資本剰余金	5,299	5,299
利益剰余金	6,105	5,527
自己株式	△5	△5
株主資本合計	13,017	12,439
純資産合計	13,017	12,439
負債純資産合計	27,498	27,501

(2) 四半期損益計算書
【第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)
売上高	31,256	29,446
売上原価	17,556	15,569
売上総利益	13,699	13,876
販売費及び一般管理費	14,487	12,428
営業利益又は営業損失(△)	△787	1,448
営業外収益		
受取利息	19	16
受取家賃	246	293
受取手数料	99	80
雑収入	59	43
営業外収益合計	424	434
営業外費用		
支払利息	4	4
不動産賃貸費用	224	282
転貸損失引当金繰入額	57	79
雑損失	8	10
営業外費用合計	294	375
経常利益又は経常損失(△)	△657	1,506
特別利益		
受取違約金	8	—
転貸損失引当金戻入額	2	—
保険差益	4	—
店舗閉鎖損失引当金戻入額	18	52
特別利益合計	33	52
特別損失		
固定資産売却損	2	—
固定資産除却損	42	4
店舗閉鎖損失	28	2
減損損失	522	50
店舗閉鎖損失引当金繰入額	106	51
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	505
災害による損失	—	34
特別損失合計	702	649
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△1,327	909
法人税、住民税及び事業税	151	138
法人税等調整額	△0	37
法人税等合計	150	175
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,478	734

【第3四半期会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期会計期間 (自平成22年9月1日 至平成22年11月30日)	当第3四半期会計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)
売上高	10,775	10,510
売上原価	5,875	5,448
売上総利益	4,900	5,061
販売費及び一般管理費	4,777	4,276
営業利益	122	785
営業外収益		
受取利息	6	5
受取家賃	86	96
受取手数料	40	32
雑収入	25	17
営業外収益合計	158	150
営業外費用		
支払利息	1	1
不動産賃貸費用	79	92
転貸損失引当金繰入額	21	29
雑損失	2	2
営業外費用合計	105	125
経常利益	175	810
特別利益		
受取違約金	2	—
転貸損失引当金戻入額	2	—
店舗閉鎖損失引当金戻入額	7	52
特別利益合計	12	52
特別損失		
固定資産売却損	2	—
固定資産除却損	10	—
店舗閉鎖損失	—	2
減損損失	149	3
店舗閉鎖損失引当金繰入額	31	1
特別損失合計	193	7
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△5	855
法人税、住民税及び事業税	49	44
法人税等調整額	△0	△2
法人税等合計	49	42
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△54	813

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△1,327	909
減価償却費	200	128
減損損失	522	50
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	505
災害損失	—	34
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	56	△42
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△90	△53
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	21	20
受取利息及び受取配当金	△19	△16
転貸損失引当金の増減額 (△は減少)	34	55
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△15	△113
支払利息	4	4
賃借料との相殺による保証金返還額	308	251
売上債権の増減額 (△は増加)	△544	△624
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△123	△406
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,350	△840
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	7	7
固定資産売却損益 (△は益)	2	—
固定資産除却損	42	4
店舗閉鎖損失	28	2
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△54	28
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△67	—
その他	133	△70
小計	△3,231	△163
利息及び配当金の受取額	1	0
利息の支払額	△4	△4
法人税等の支払額	△200	△197
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,434	△364
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△37	△75
有形固定資産の売却による収入	1	—
定期預金の預入による支出	—	△200
敷金及び保証金の差入による支出	△68	△19
敷金及び保証金の回収による収入	262	228
投資活動によるキャッシュ・フロー	158	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△311	△155
リース債務の返済による支出	△2	△2
割賦債務の返済による支出	△72	△91
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386	△249
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,662	△681
現金及び現金同等物の期首残高	10,612	9,518
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,949	8,837

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当第3四半期累計期間(自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)

当社は衣料品小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 「参考資料」

商品別売上高の状況

商品別	期別 前第3四半期累計期間 自 平成22年3月1日 至 平成22年11月30日	当第3四半期累計期間 自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日	前年同四半期比	増減
メンズアウター	1,187百万円	1,015百万円	85.5%	△171百万円
メンズインナー	7,813百万円	7,410百万円	94.8%	△403百万円
メンズボトムス	6,142百万円	5,889百万円	95.9%	△253百万円
レディース	9,390百万円	8,397百万円	89.4%	△993百万円
その他	6,721百万円	6,734百万円	100.2%	12百万円
合計	31,256百万円	29,446百万円	94.2%	△1,809百万円

(注) 「その他」は小物、子供服等であります。